

珊瑚樹記念堂（本校の周辺史跡紹介） 7

東郷平八郎誕生地



本校に掲示されている写真

東郷平八郎誕生地は、本校新館沿いの二本松馬場通りにあります。住宅は本校の敷地内にあった（以前紹介した「下加治屋町の住宅地図」参照）とのことで、本校新館にはそのことを記念して3枚のプレートが取り付けられています。



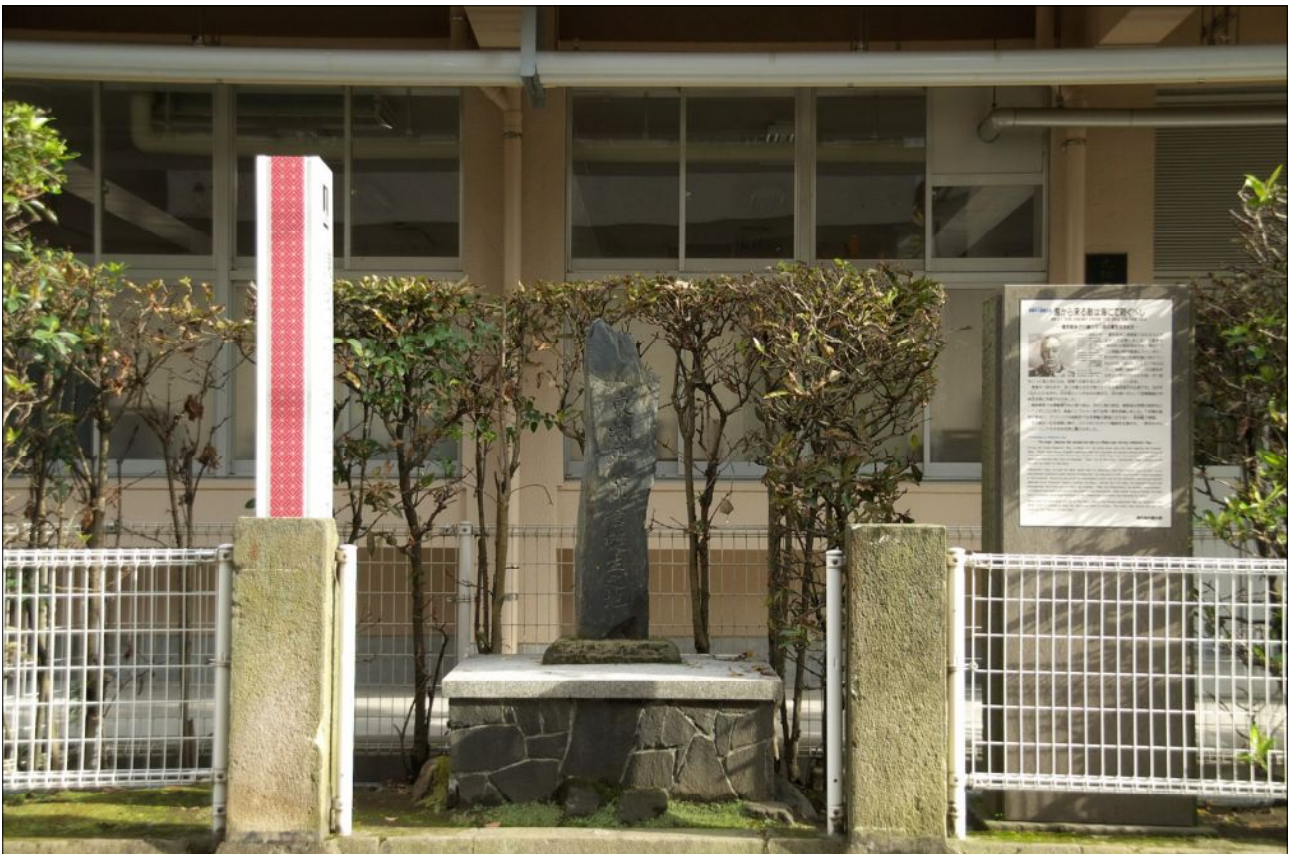
市設置の案内板



新館の柱に取り付けられたプレート（下の写真にも一部写っています。次頁参照）



東郷の誕生地がある二本松馬場通り





石碑正面
「東郷平八郎君誕生之地」とある



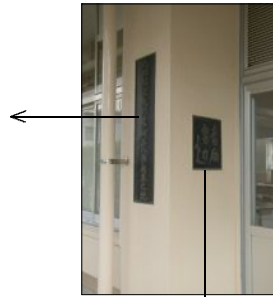
石碑裏面
「明治三十八年十一月十七日 高等女學校學友會建之」とある

本校新館に設置されている記念プレート

化学実験室の机にはめ込 「元帥海軍大將 東郷平八郎 誕生之地」



「元帥海軍大將東郷平八郎誕生之地」



「奮勵 努力 平八郎書込」





市設置の案内板



案内板にある写真

1847(弘化4)	鹿児島市加治屋町に生まれる
1863(文久3)	薩英戦争に参加
1868(明治元)	薩摩藩軍艦乗組み
1871(明治4)	英国へ留学
1878(明治11)	帰国 海軍大尉
1894(明治27)	日清戦争に浪速艦長として参加
1896(明治29)	海軍大学校長
1903(明治36)	連合艦隊司令長官
1904(明治37)	海軍大将
1905(明治38)	日露戦争のときには連合艦隊司令長官として、露国バルチック艦隊を破る
1913(大正2)	元帥
1914(大正3)	東宮御学問所総裁
1934(昭和9)	5月没 88歳

案内板にある年譜

東郷平八郎誕生地の案内板（鹿児島市観光課作成）の本文

とうごうへいはちろう
東郷平八郎誕生地

海から来る敵は海にて防ぐべし

— 薩英戦争が15歳の平八郎の運命を決めた —

薩英戦争に東郷家では父子4人がそろって出陣しました。生麦事件(横浜市)の直談判のため7隻のイギリス軍艦が鹿児島湾に入ってきて、計101門の砲口を鹿児島に向けていたのです。1863年(文久3)7月2日、ついに戦闘が開始され、力の差をまざまざと見せつけられた時、平八郎はじっと海上をにらみ、海軍への道を志した—といわれています。

東郷平八郎もまた、多くの偉人たちが育った下加治屋町郷中の出身です。1847年(弘化4)に生まれ、仲五郎といった幼少の頃から、芯の強い子として西郷隆盛の次弟吉次郎に可愛がられました。

維新戦争では軍艦春日丸に乗り組み、次々と戦に参加。維新後は海軍の留学生としてイギリスに学び、帆船ハンプシャー号で世界一周を体験しました。7年間の留学の最後に、グリニッジの造船所で日本軍艦の建造に立ち会い、新鋭艦で帰国。

その後は一生を海軍に捧げ、ロシアのバルチック艦隊を全滅させ、「東洋のネルソン」としてその名を世界に轟かせました。

The Birthplace of Heihachiro Togo

MEET THE ENEMY FROM THE SEA ON THE SEA

...The Anglo-Satsuma War decided the fate of a fifteen-year-old boy, Heihachiro Togo...

During the Anglo-Satsuma War, a father and his three sons took the field against the English fleet. There were seven English warships with 101 muzzles of canons aiming at Kagoshima to seek compensation for the Namamugi-incident. In 1863, they went into battle and the people of Satsuma realized their lack of strength. Then one of the sons, Heihachiro Togo, staring at the sea set his heart on the Navy.

Heihachiro Togo, as well as other great men of Satsuma, was from *Kajiya goju* (a goju is an educational institute in each district of Satsuma). He was born in 1847 and he was called Chuugoro in his boyhood. Since he was small he developed a hard core to his character and he got special affection from Takamori Saigo's brother, Kichijiro. During the Civil War, he shipped aboard the *Kasugamaru* and took part in many sea battles. After the Restoration, he studied seamanship in England and sailed all around the world in the *Hampshire*. After seven years of study, he took part in building Japanese warships at the Greenwich dockyard and returned to Japan.

Since then he dedicated his life to the Navy, and in the Russo-Japanese War he destroyed the Baltic fleet of Russia to lead the Japanese fleet to victory. His name was known all over the world as the "Nelson of the East".

本校の珊瑚樹記念堂前に写真とともに掲示されている「東郷平八郎」の説明文

(文章は原文のまま)

東郷平八郎

海軍軍人侯爵 一八四七年加治屋町生まれ
旧藩士、一八六三年薩英戦争に出陣、尋て
藩の海軍に入る。戊辰役には春日艦乗組
北越函館に出動、六九年見習士官になる。
七一年イギリス留学、日清役には浪速館長、
英国艦高陞号を撃沈、黄海海戦に参加
日露役には連合艦隊司令長官、バルチック
艦隊を全滅。一九一三年元帥、翌年東宮学
問所総裁

(元帥 海軍大将 伯爵)